

なぜオブジェクト指向開発技術で開発するのが良いか？

- ・ オブジェクト指向は変化に対応できるシステム開発
従来のウォーターフォール型開発は「確定文化」、品質確保には有効だが、変化への追従に限界
オブジェクト指向はビジネス環境変化やユーザー要望への柔軟な対応が容易な開発技術の総合体系
- ・ オブジェクト指向はスパイラル
オブジェクト指向は、開発、運用、保守を繰り返すシステム開発を容易に実現する仕組み、スパイラルで成長が可能
不確定要素を前提とし、小さく作って大きき育てることが可能
- ・ オブジェクト指向は「できるだけ作らない」、「再利用」の文化
従来型開発でもフレームワークの徹底、ソフトウェア部品化にチャレンジ、一定の成果はあるが限界も
オブジェクト指向は基本的にオープンソース、クラスライブラリ、コンポーネットといった基本型の修正流用が容易
- ・ オブジェクト指向はユーザーとの協調
モデリングからソフトウェアまでUMLで見える化、相互コミュニケーションが飛躍的に向上
イテレーション(繰り返し開発)手法がユーザー要望の的確な反映に貢献